八戸市立 **市川中学校 学校だより「じょ」**

平成27年1月30日(金)

校長通心 No.38 校長 馬渡教二

## 空をかついで （石垣りん）

肩は
首の付け根から
なだらかに伸びて

肩は
地平線のように
つながって
人はみんなで
空をかついで
きのうからきょうへと

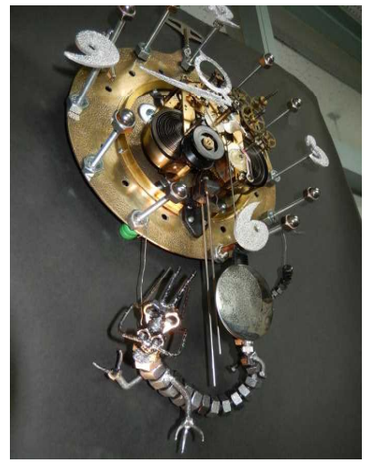
子どもよ
おまえのその肩に
おとなたちは
きょうからあしたを移しかえる
この重たさを
この輝きと暗闇を
あまりに　ちいさきその肩に

少しずつ
少しずつ

## 手間暇かけてつくりあげる『絆シャフト』

我々の日本文化をさかのぼると、「ものを大切にする」・「孝行する」・「礼儀」・「暮らし方」・「食べ方」・「付き合い方」・「話し方」…などの**「生きる姿」に価値を置いていた**ことがうかがえる。日本文化は貧しいところにできたので、元来ものを大切にしてきたはずだけれど、高度成長時代に「使い捨てる」ことが多くなってしまった。**日本文化の「捨てる」は、「富も欲望も捨て、裸に純粋になる」と言う意味の「捨てる」だった**はずである。しかし、今の便利社会はデジタル全盛時代になり、あらゆるものが0か1の二つの数字の組み合わせによって表されてしまう世の中である。目に見えない「真心」や「相手を思う気持ち」が、ないがしろにされているような…気がしてならない。もはや選択の余地のないままに、好き嫌いに関係なくそれらのデジタルを使わなければ生活出来なくなってきているのも事実である。けれども、**今の便利社会があるのは、先人たちが長年培ってきたアナログの技術があったから**こそであり、今だって薪と土鍋にこだわってご飯を炊き、おもてなしをしてくれる老舗がたくさんある。

この間全校朝会で紹介したゼンマイ時計。95㎝の真鍮板の外周をたった8㎝切断するのに糸のこ盤で約2時間…表面に模様をつけようとセンタポンチでキズをつけること6時間…穴開け、ボルト・ナット締め、アルミ板での文字盤製作、はんだづけ…金属加工の難しさと格闘の末、出来上がった完成品は、アナログっぽい動きが醸し出すわずかなズレや響きが味わいを放ち、「ボーンボーン」という時報が、小さかった子どもの頃の時代へタイムスリップさせてくれる……。最近のデジタル製品では味わえない感動を味わわせてくれた。



このゼンマイ時計も一個一個の部品製造から、組み立て・調整と**その機能を得るまでには多くの職人の「手間暇」がそこには隠されている。だからこそ、その完成品と一生涯ともに時を刻んでいく素晴らしさや価値があるのだと思うし、手間暇かけたものづくりは、その製品に血を通わせ、血が通っているからこそ人々の生活に馴染んでいくのではないだろうか？…。**

4月から築き上げてきている**各クラス・各学年の絆シャフトもまた、手間暇かけたものづくりに似ている。手間暇がかかるからこそ、やがて中学校時代を確かめる時がやってきたときに、大切な大切な財産となってみんなの手元に残っていくのだと思う。**各学級集団・学年集団で大きな共通体験を重ねる中、様々な人の感じ方、考え方、行動、感性に触れ、良い思い出も嫌な思い出もその全てが自分自身を成長させるための「糧」になっていることに気づけているだろうか？3年生の面接練習をしている中で、「中学校生活の中で一番思い出に残っていることは何ですか？一番感動したことは？」と尋ねると、ほとんどの人が、修学旅行、夏季大会、合唱コン、体育祭、文化祭と行事でのひとこま（武車輪）をあげる。つまり、一つの目標に学級全体や学年・学校全体が向かっていったときに人間関係＆絆＝『絆シャフト』が不可欠だったこと。そして共通体験したことが、一人一人の心の中に深く印象を刻んでいるからだと思った。もちろんその時に集団の中でのお互いの支え合いが必要だったのは言うまでも無い。

平成26年度も残り一ヶ月半となった。**3年生は面接練習⇒私立入試⇒5次考査⇒県立入試⇒卒業式。1～2年生は5次考査⇒希望式・立志式。と、本年度の総まとめとしての「文車輪」をフルフル回転させなければいけない時だし、同時に、今までの自分を新しい自分に変身（自己革命＝My Revolution）させ、自分自身の夢や目標の実現へ向けた「歩み出し」と「感動」を共有し合う「それぞれの式」に向かうことで、各学年の「絆シャフト」づくりの総決算を迎えることになる。**それが、来年度のスタートの土台となるとともに、誇れる市川中を創っていく一員としての自覚・役割・責任につがっていくんだと思う。